

他市場における再整備の概要について

福岡市中央卸売市場青果市場

移転

開場時期：平成28年2月（基本構想：平成16年度）

施設規模：敷地面積 約15万㎡、延床面積 約9万3千㎡

主な機能・施設：

- | | |
|------------------------|---|
| 機能的な施設配置 | ➢取引形態（相対、せり）に合わせて施設を区分 |
| 効率性や安全性を考慮したコンパクトな施設計画 | ➢物流動線の明確化及び短縮化
➢施設改変のフレキシビリティの確保（構造体と間仕切壁等を分離） |
| 食の安全・安心の確保 | ➢卸売場の大半を密封式の定温卸売場として整備
➢食品衛生検査所の設置 |
| 環境負荷の軽減 | ➢市場内搬送車両の電動化と共同充電設備の整備
➢メガソーラーの設置 |
| 管理体制の強化 | ➢車両管理システムの導入（コインパーキング方式など） |
| 施設の一部を市民に開放 | ➢市場会館棟横に、イベント開催可能な多目的広場を整備 |

東京都中央卸売市場豊洲市場

移転

開場時期：平成30年10月（基本構想：平成15年度）

施設規模：敷地面積 約40万7千㎡、延床面積 約51万7千㎡

主な機能・施設：

- | | |
|-------------------|--|
| 食の安全・安心の確保 | ➢エリアごとに適温管理ができる施設（＝閉鎖型施設）
→シートシャッターやエアーカーテン、自動立体低温倉庫など
➢売場への「入場管理室」の設置（手洗い、靴底消毒など） |
| 効率的な物流、新たなニーズへの対応 | ➢卸売場等の近くに荷捌き用のスペースを配置
➢加工、小分け、包装等ができる加工パッケージ施設を整備 |
| 省エネ、環境への配慮 | ➢太陽光発電など自然エネルギーの活用
➢外気冷房システムの導入
➢LED照明などの省エネ機器の採用 |
| にぎわいの創出 | ➢千客万来施設事業を推進（令和4年12月完成予定）
➢近隣の公園と一体的に屋上緑化広場を開放 |

京都市中央卸売市場第一市場

改修/建替え

開場時期：令和10年（基本構想：平成25年度 水産棟：改修、青果棟：建替え）

施設規模：敷地面積 約10万5千㎡、延床面積 約17万8千㎡

主な機能・施設：

- | | |
|------------------------|---|
| 市場施設の効率化 | ➢作業効率化のため、高層化等により施設を集約
➢作業工程の自動化・機械化を推進 |
| 物流動線の効率化 | ➢荷降・積込のための低床式トラックバースの設置
➢大量商品の積込のための整理用スペースの設置
➢車両管理ゲートの設置 |
| 品質管理水準の高度化 | ➢閉鎖型施設の整備による衛生環境の向上（外気、風雨等）
➢温度管理を徹底し、コールドチェーンを確立
➢棟内出入口等へ消毒槽を設置
➢品質管理の徹底のため「総合品質保証室」を設置 |
| 環境への配慮 | ➢太陽光発電やLED照明の導入
➢車両の電動化と充電スタンドの設置 |
| 市場の事業継続性の確保 | ➢施設整備、維持管理において可能な限り民間活力を導入
➢国・府・市・事業者の全体で費用負担を最適化 |
| 京都・日本の食文化の魅力を発信する機能の創出 | ➢市場周辺エリアの活性化に貢献
➢市場見学者専用ルートを整備
➢民間事業者のノウハウによる「賑わいゾーン」の活用 |

広島市中央卸売市場

建替え

開場時期：令和10年代初頭（基本構想：平成29年度）

施設規模：敷地面積 約24万2千㎡、延床面積 約14万7千㎡

主な機能・施設：

- | | |
|------------------|--|
| 品質及び衛生管理の高度化 | ➢閉鎖型施設とし、コールドチェーンを確立 |
| 物流動線の効率化と場内の保安確保 | ➢車両及び荷物のスムーズな動線を確保
➢車両管理ゲートの設置や、一般来場者の入場エリアを区分 |
| 物流拠点としての機能充実 | ➢場内加工施設の充実
➢余剰地を確保し、選果場・物流センター等を誘致
➢Wi-Fiの整備など、情報通信技術の導入に向けた環境整備 |
| 災害時の市場機能の継続性の確保 | ➢非常用電源の確保、BCPの策定・運用 |
| 労働環境の改善 | ➢託児施設や労働負担を軽減する設備の導入 |
| 賑わい機能の導入や文化の発信等 | ➢関連事業者店舗と賑わい機能導入施設との一体整備
➢見学者コースの設定 |